

吾妻山の火山活動解説資料

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

＜噴火警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表＞

令和元年5月9日18時40分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）に引き上げました。

吾妻山では、5月5日頃から火山性地震が多い状態で経過しているなか、浄土平観測点（大穴火口の東南東約1km）に設置している傾斜計で、本日（9日）17時30分頃から大穴火口方向上がりの明瞭な傾斜変動がみられており、火山活動の活発化が認められます。

以上のことから、本日18時40分に火口周辺警報を発表しました。

吾妻山では、今後、小規模な噴火が発生する可能性があります。

【防災上の警戒事項等】

大穴火口から概ね1.5kmの範囲（図1）では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石、火山ガスに注意してください。

○ 活動概況

・地震や微動の発生状況（図2）

5月5日頃から火山性地震が多い状態で経過しており、地震回数は8日120回、9日83回（18時現在）となっています。震源は大穴火口付近直下の浅いところと推定されます。

火山性微動は、2018年12月23日を最後に観測されていません。

・地殻変動の状況（図3）

浄土平観測点（大穴火口から東南東約1km）に設置している傾斜計では、本日（9日）17時30分頃から大穴火口方向上がりの明瞭な傾斜変動がみられています。

・噴気など表面現象の状況

監視カメラによる観測では、大穴火口とその周辺の噴気や地熱域の状況に特段の変化は認められません。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。

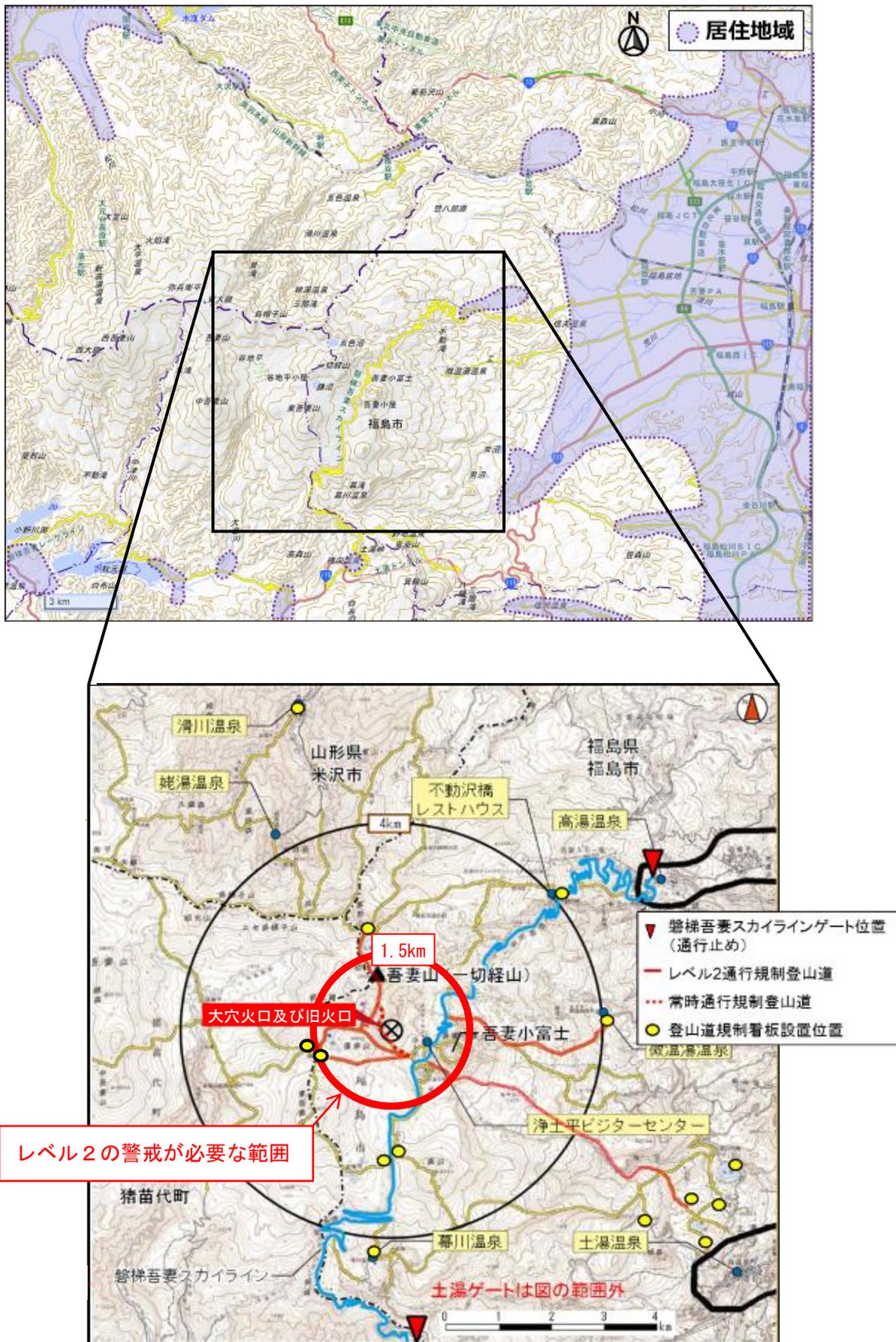


図1 吾妻山 レベル2の警戒が必要な範囲と周辺図

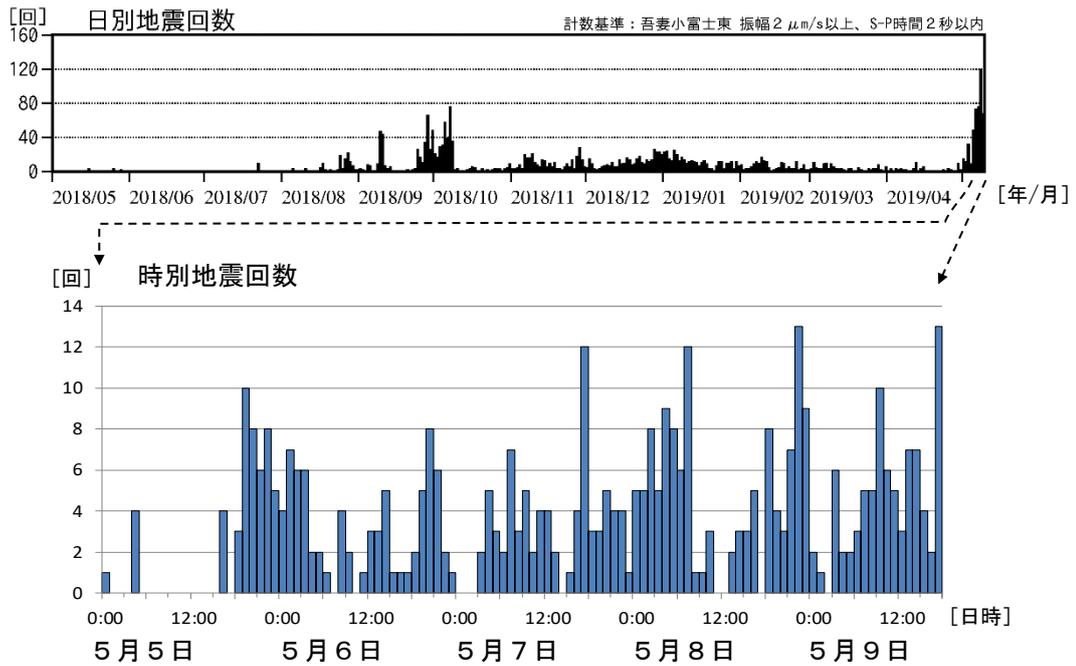


図2 吾妻山 地震回数 (2018年5月～2019年5月9日18時)

- ・ 5月5日頃から火山性地震が多い状態で経過しています。
- ・ 5日以降の日回数は、5日49回、6日73回、7日76回、8日120回、9日83回（18時現在）となっています。

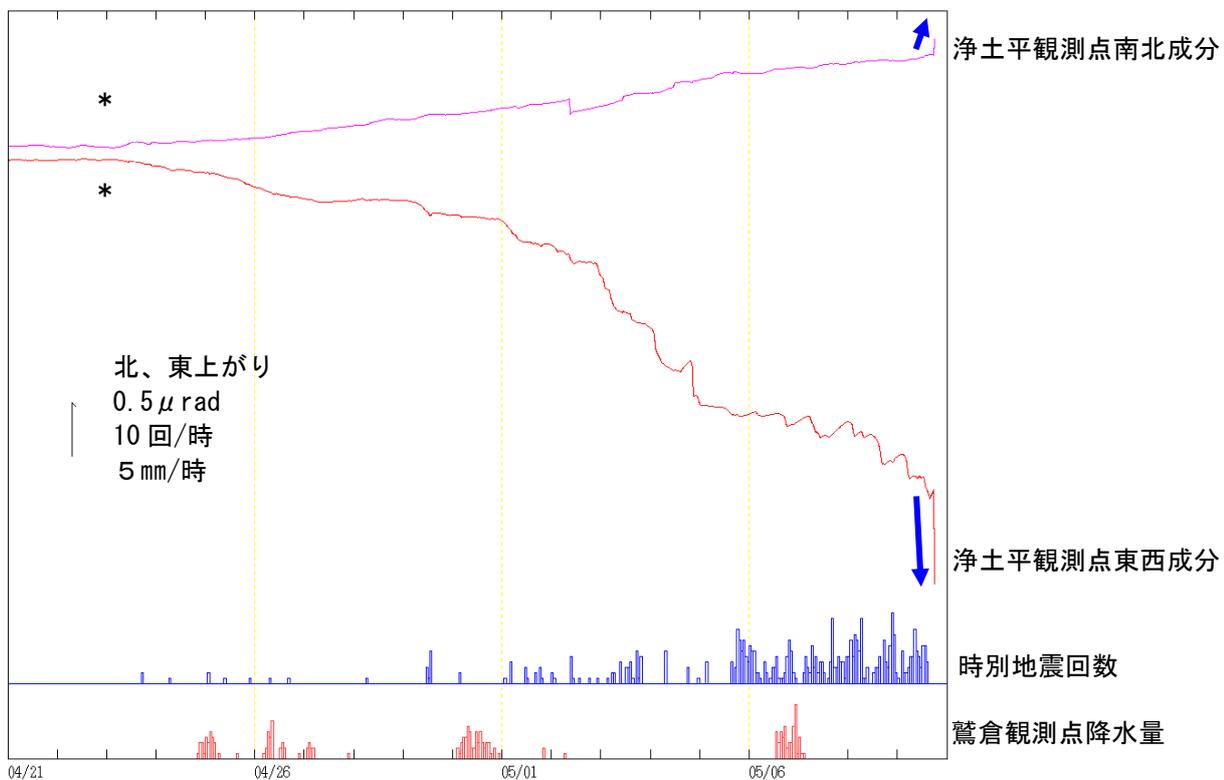


図3 吾妻山 浄土平観測点における傾斜変動

(2019年4月21日～5月9日18時、分値、潮汐補正済み)

- ・ 浄土平観測点（大穴火口から東南東約1km）に設置している傾斜計では、本日（9日）17時30分頃から大穴火口方向上りの明瞭な傾斜変動がみられています（青矢印）。
- ・ 4月下旬頃から融雪の影響によると考えられる北西上りの変動がみられています。

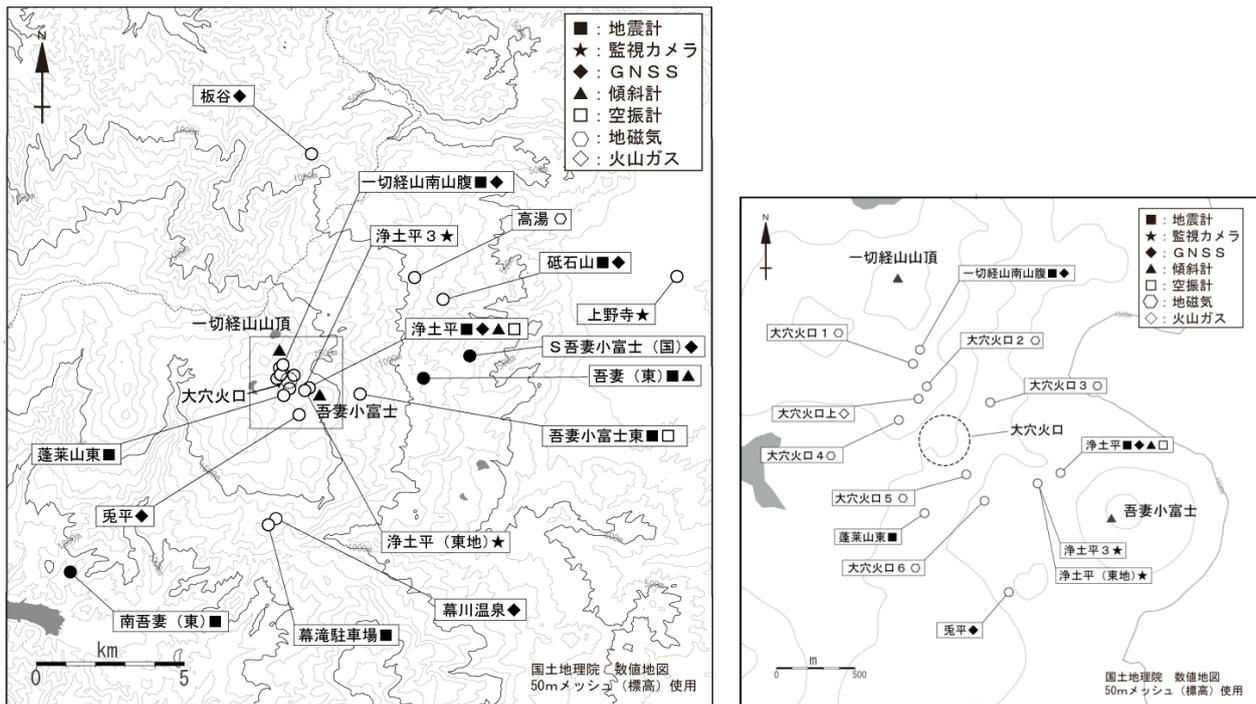


図4 吾妻山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
左図の四角囲みは右図の表示範囲を示しています。
（東地）：東北地方整備局 （国）：国土地理院 （東）：東北大学